

会計・監査モデル分析

鈴木 孝則 教授

1. 担当教員の専門分野(研究領域)・現在の研究テーマ

研究領域は、契約理論等にもとづくモデル分析によって会計・監査実務を評価することである。特に、株主による経営者の動機付けの問題を、会計情報システムやインセンティブシステムを用いて如何に解決していくかが現在の研究テーマである。

2. 指導方針

入学時の研究テーマに関して、博士論文を完成させることを目的とする。研究方法論として経済モデル分析を用いるために、微積分、線型代数、および確率・統計が理解されており、ミクロ経済学が既習であることを前提とする。研究指導は概ね以下のように進捗する。第1期:基本的な研究書や論文を読み進めることによって、会計・監査のモデル分析の方法論を習得する。第2期:研究テーマに関する文献の渉猟を通じ博士論文の構成を完成する。第3期:それまでの準備に基づいてモデルの構築および分析を行い、論文を完成する。

3. 学生に対する要望・その他

博士論文を完成させるためには、入学時の研究テーマがすでに十分明確であることが要求される。それを前提として、研究テーマが内包する問題を解決するための情熱を常に持ち続けることを期待したい。